

## 【報告】

### 2022 年度事業計画総括

放射線技術学は、様々な学問をベースに、放射線検査・治療における患者の負担（肉体的、精神的、経済的、被ばくを含む）の軽減や、質の高い医用画像診療情報の医師への提供に関する研究を中心として発展を続けている。近年、AI（人工知能）の活用が放射線技術学の世界でも広がりつつあり。医学、医学物理学や理工学等の幅広い分野での会員の連携による新しい放射線技術学の創成を通して社会に貢献する学会となるよう会務運営に努めたい。

昨年度の総会学術大会は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、パシフィコ横浜会議センターを中心とした4日間の現地開催に加え、約1か月間のオンデマンド配信（Web）のハイブリッド開催を初めて実施し、本会参加登録数は3,988名と盛況であった。今年度の総会学術大会もコロナ禍を想定した安全・安心な現地開催と、一部のライブ配信を含むWeb開催のハイブリッド開催を企画している。さらに、今年度より日本医学物理学会と合同で国際会議として International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT)の開催をスタートする。

国際的な学術連携としては、新型コロナウイルスによる影響で停滞している、中華医学会影像技術学会（中華人民共和国）、大韓放射線科学会（大韓民国）、タイ医学物理学会（タイ王国）、中華民國醫事放射學會（台湾）との学術交流について、海外との国交正常化を待って、早急に再開する。また、本会の更なる国際化に向けた広報活動を強化しつつ、本学会と学問領域が近い海外の学術団体との交流・締結を模索する。東南アジア教育支援事業については、活動範囲を東南アジアからアジア全域に拡張し、放射線技術学に関する教育支援活動を行う。

国内の関連団体との学術連携については、昨年度に発足した日本医学放射線学会、日本放射線科専門医会・医会、日本診療放射線技師会との放射線診療4団体連絡会議を中心として、All Japan Radiologyで国民に放射線診療の必要性和安全性を広報し、理解を求める。日本循環器学会ならびに日本放射線看護学会とは引き続き連携し、学術交流を進める。また、日本診療放射線技師会とはそれぞれの法人で特色のある放射線技術学／臨床応用の分野での活動を明確に区別しつつ共通目的の領域では連携を強化する。会務事業品質を担保するための事業評価は、学会事業評価委員会にて自己評価を行い各事業にフィードバックしていく。

学会事業としては、教育プログラムとしてeラーニングやWebセミナーを引き続き充実させ、すべての会員へ還元する。また、新たにコンプライアンス委員会を設けて学会事業における本学会の役職員並びに会員に対するコンプライアンスの意識の浸透を図り逸脱を防止する。会員の皆さまの一層のご理解とご支援をお願いする次第である。

以下に、2022年度事業計画の総括を述べる。

#### 1. 学術集会事業；公1

##### 1) 学術大会の開催

###### (1) 総会学術大会の開催

第78回総会学術大会を2022年4月14日（木）～17日（日）の4日間、白石順二大会長のもと、パシフィコ横浜会議センター他で日本ラジオロジー協会（JRC）の運営により第81回日本医学放射線学会総会、第123回日本医学物理学会学術大会ならびに2022国際医用画像総合展との併催で開催する。

なお、パシフィコ横浜会議センター他の現地開催とWeb配信によるハイブリッドにて開催する。さらに、大会のWebサイトにて、開催前から事前情報の提供や、大会期間中のプログラムのライブ配信、大会終了後に5月18日までオンデマンド配信等を行う。

また、第79回総会学術大会を市田隆雄大会長のもと、2023年4月の開催（パシフィコ横浜会議センター 他）に向け準備を進める。

(2) 秋季学会大会の開催

第 50 回秋季学会大会を 2022 年 10 月 7 日（金）～9 日（日）の 3 日間、飯田紀世一大会長のもと、国際ファッションセンター（東京都墨田区）において JRC の協賛を得て開催する。

(3) セミナー・研修会の開催

教育委員会が主催，専門部会ならびに地方支部が共催で，19 のセミナー・研修会をのべ 30 回開催する。

(4) 専門部会プログラムの開催

7 つの専門部会が各専門分野に特化した独自の企画で春秋の学会大会にジョイントして専門部会プログラムを開催し，トレンドな技術情報をタイムリーに発信する。

(5) 地方支部における学会大会，セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の企画で，春もしくは秋に学会大会ならびにフォーラムやセミナーなどを開催する。また，地方支部と学術委員会，教育委員会，専門部会が協力してセミナー，研修会等を実施して地域における学術活動を活性化させる。

(6) 市民公開シンポジウム・市民公開講座等の開催

公益法人としての事業の一環であり，本学会の学術領域を社会に広報する目的で今年度は 2 回（京都市，東京都墨田区）開催する。

## 2. 刊行広報事業；公 2

1) 学会誌関連

学会誌第 78 巻第 3 号～第 79 巻第 2 号の 12 冊を毎月 20 日に定期発刊する。その中で論文特集号（第 78 巻 11 号）も組み込み，電子ジャーナルの発行も行う。剽窃チェックシステムを導入し論文査読を効率化しつつ学術研究発表から論文文化への推進を行い投稿論文の増加推進に努める。また，各専門部会と連携し最新の用語集を維持・公開する。

2) 英語論文誌関連

第 15 巻 1 号を 2022 年 3 月，第 15 巻 2 号を 2022 年 6 月，第 15 巻 3 号を 2022 年 9 月，第 15 巻 4 号を 2022 年 12 月に電子ジャーナルおよび冊子体を発刊する。第 78 回総会学会大会で，日本医学物理学会との合同企画ならびに土井賞，Most Citation Award の表彰式ならびに土井賞の受賞者講演を開催する。

3) 出版活動

放射線医療技術学叢書出版に向けた準備をする。また，放射線技術学教育関連図書およびスキル UP シリーズを発刊するとともに既出版物の販売促進を図る。叢書と教科書シリーズの電子化を推進する。

4) 支部雑誌の発行

各支部において支部雑誌を 1 回～3 回発行する。（電子ジャーナルを含み 14 回）

5) 部会誌の発行

各部会において部会誌を電子ジャーナルで 2 回発行する。

6) 広報活動

学会事業ならびに放射線技術学に関係する専門分野の研究動向などを，市民公開シンポジウムや市民公開講座などの開催，ホームページへの掲載ならびにメールマガジンの配信を通じて一般市民含めて学会内外に広報する。

## 3. 研究調査事業；公 3

学術研究班（13 班）による学術研究を行う。動画コンテンツを推進して e-learning の充実ならびに定着化を図る。また，学会大会において専門部会講座入門編と専門部会講座専門編ならびに第 78 回総会学会大会ならびに第 50 回秋季学会大会において教育的講座を開催する。アジア教育支援事業について

ては、アジア諸国に向けた診療放射線技師向けの教育デジタルコンテンツの開発・作成を行い、順次配信を行う。

#### 4. 研究奨励事業；公4

規程に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞等の選考・推薦・表彰ならびに関係省庁、関連団体被表彰者の推薦を行う。また、北海道支部、東北支部、関東支部、東京支部、中部支部、中国・四国支部、九州支部において表彰もしくは研究奨励を目的に助成を行う。

#### 5. 連携交流事業；公5

##### 1) 国内

- (1) 関連学協会および関連団体と積極的な交流を図るとともに共同による企画などの立案を行う。放射線技術に関する関係法令に関して関係省庁や放射線審議会等から情報を収集し、整理して会員等に情報提供する。関係省庁、日本画像医療システム工業会（JIRA）および関連学会と協力してIECと整合をもったJIS化作業を行い、その普及活動を積極的に行う。医療情報の標準化にかかわる規格・コード・ガイドラインなどについて関連団体と協議、策定および普及に努める。放射線防護に関しては医療被ばく研究情報ネットワーク（J-RIME）に参画し、関連学会等と連携して診断参考レベルの検討、情報提供ならびに普及に努める。医療安全についても関連団体と連携して具体的に取り組んで行くとともに会員等への情報発信をおこなう。
- (2) JRC 理事会に役員を派遣し、学術大会の開催企画に参画する。
- (3) 関係省庁、教育機関、関連学協会との一層の連携を図っていく。
- (4) 日本診療放射線技師会と共催にて第16回 JART-JSRT 合同市民公開講座を2022年9月に神戸市にて開催する。

##### 2) 海外

本学会と学問領域が近い学術団体と学術交流の締結を推進する。特に、新型コロナウイルスの感染拡大により学術交流が停滞している中華医学会影像技術学会、大韓放射線科学会、タイ医学物理学会、中華民国醫事放射學會との学術交流関係を、感染拡大の収束を待って再開し、双方の学会での研究発表を促進する。また、短期留学生の海外派遣、国際研究集会への海外派遣等の助成事業も感染拡大の収束を待って再開する。